

## スタンダードとしての 6 時間透析 : Six-hours hemodialysis as a standard

### 【目的】

当院では 1989 年の透析施設開設から現在まで一貫して、すべての患者に 6 時間透析を実施しているが、これは他に類例がないものである。そこで、長時間透析のスタンダードとしての 6 時間透析について、その生存率、平均余命、死亡原因を提示し、今後の血液透析療法のあり方を探る上での道しるべのひとつとしたい。

### 【方法】

6 時間透析における実態調査であることを明確にするために、1989 年 8 月以降、(1) 当院で透析導入後、そのまま 6 時間透析を 6 ヶ月以上継続しているもの (2) 他施設での導入後、6 ヶ月以内に当院へ転院し、以後、6 時間透析を 6 ヶ月以上継続しているもの、という条件を満たした 230 人(男 140 人、女 90 人)を対象とした。その中で糖尿病性腎症は 80 人 34.8%であった。2012 年 7 月末日現在における累積生存率を Kaplan-Meier 法を用いて算出し、2012 年発行の日本透析医学会による現況報告と比較した。また、平均余命を算定し、一般人口および透析人口のそれと比較した。死亡原因は臨床診断によった。

### 【結果】

- 1) 累積生存率は 5 年 81.5%、10 年 56.6%、15 年 42.3%、20 年 31.5%であり、日本透析医学会による 5 年 57.0%、10 年 35.5%、15 年 23.3%、20 年 16.1%と比較すると、当院 6 時間透析患者の生存率は明らかに良好であった。
- 2) 平均余命は 40 歳で男 29.1 年、女 31.9 年で、一般人口に対する比率は男 71.2%、女 67.7%であり、対透析人口では男 141.5%、女 137.7%であった。60 歳では男 12.3 年、女 15.1 年となり、一般人口比は 54.0%、53.2%と低下したが、対透析人口では男 125.0%、女 133.5%と上回っていた。どの年齢においても、女の方が男より僅かに良好であった。
- 3) 観察期間中に 93 人が死亡した。死亡原因は感染症が 24 例 25.8%で最も多く、悪性腫瘍 20 例、心筋梗塞 12 例、脳血管障害 12 例などが続いた。死亡時年齢は平均 72.1 歳であった。

### 【考察】

昨今、長時間透析が患者の生命予後や QOL 改善に有用として注目されているが、23 年にわたり継続してきた当院の 6 時間透析は、長時間透析のスタンダードとしての使命を果たすとともに、一般の評価にも十分耐えるものであると信じている。他方、その限界も見えており、今後の課題として捉えていきたい。